

食安輸発第0711001号
平成17年7月11日

各検疫所長 殿

医薬食品局食品安全部監視安全課
輸入食品安全対策室長
(公印省略)

平成17年度輸入食品等モニタリング検査の強化について

標記については、平成17年3月31日付け食安輸発第0331003号において通知したところです。

今般、下記のとおり、果汁に係る残留農薬のモニタリング検査を実施することとしましたので、御了知の上、実施方よろしく申し上げます。

記

- 1 実施期間：平成17年7月12日から平成18年3月31日まで
- 2 対象食品：100%果汁及び原料用果汁（ミックス果汁を除く）
- 3 採取方法：平成17年3月31日付け食安輸発第0331003号別表第2の「農薬」の④によること。
- 4 検査項目：平成17年3月31日付け食安輸発第0331003号別表第4の農薬、イマザリル、オルトフェニルフェノール、ジフェニル、チアベンダゾール（防ばい剤の検査は、かんきつ類に限る。）
- 5 試験方法：残留農薬は、固層抽出法による残留農薬一斉分析法によることとし、検出された値が残留基準値を超える疑いがある場合には、平成17年1月24日付け食安発第0124001号「食品に残留する農薬、飼料添加物又は動物用医薬品の成分である物質の試験法について」により試験を実施することとし、防ばい剤については、平成12年3月30日付け衛化第15号「食品中の食品添加物分析法について」の別添「第2版 食品中の食品添加物分析法」により試験を実施すること。
- 6 検査検体数：オレンジ 40件（ブラジル18、メキシコ10、米穀5、オーストラリア4、その他3）

リンゴ 40件 (中国25,オーストリア6,ブラジル3,その他6)

その他 39件

7 備

考：生果の基準値を超える農薬又は防ばい剤が検出された場合にあっては、食品衛生法第11条違反のおそれがあることから自主的に積み戻し又は廃棄等を行うよう輸入者に対し指導するとともに、栽培段階での農薬の使用状況等について調査を行うよう指導すること。

ただし、濃縮等された果汁にあっては、濃縮等された倍数に応じて、ストレート果汁に換算して判断すること。

また、輸入者から、検出した農薬の果汁への残留に係る科学的なデータ等の提出等原材料の生果が規格基準に適合していることを示す説明があった場合には、企画情報課検疫所業務管理室を通じて当職まで照会すること。